



大阪府済生会千里病院 地域支援センター 地域医療連絡室だより

編集・発行
済生会千里病院 地域支援センター
地域医療連絡室
〒565-0862
吹田市津雲台 1-1-6
TEL 0120-115-031 (登録医専用)
FAX 06-6871-5915



第42回 登録医会総会並びに学術講演会

平成22年4月17日(土)15時30分より、千里ライフサイエンスセンター5階サイエンスホールにて「第42回 登録医会並びに学術講演会」が開催され、登録医44名、職員49名、その他合わせて95人にご出席いただき盛会に終わりました。

学術特別講演 第1部

○演題「C型肝炎治療の新たな展開」

大阪大学大学院医学系研究科

内科系臨床医学専攻 消化器内科学 講師 平松 直樹 先生

平松先生にはC型慢性肝炎の最新の治療について、ペグインターフェロンとリバビリンの併用療法を中心に講演していただいた。両薬剤の治療効果への関与について豊富な臨床データをもとに解説された。さらに高齢者への投与の適応、肝機能正常者への投与の適応についてのデータを示していただき、現在臨床試験中の新薬についても最新のデータをもとに紹介していただいた。現在、肝炎治療には助成制度が導入されているため関心が高い領域であり、会場からも熱心な質問があり有意義な講演であった。(筆者：第一診療部長 鈴木 都男)



学術講演 第2部

○演題Ⅰ「当院における術後回復強化プログラム導入後の成績」

済生会千里病院 消化器外科部長 太田 博文

当院では、大腸手術の術後回復強化(Enhanced recovery after surgery: ERAS)プロトコルを実践している。このERASプロトコルは、従来の術後管理法と比較して斬新な管理法であるため、本邦では実践されている施設が少ない。このプロトコルによって手術翌日から点滴がなくなり、同時に食事を開始する。翌日から身動きが自由となり歩行が十分に可能である。排ガス、排便などの消化管機能の回復も早く、大部分の患者さんは1週間以内で退院が可能である。当院では、2008年1月から開始し、現在ではクリニカルパスとして運用されているため、当院の外科医はもちろん、麻酔科医、病棟看護スタッフも既にこれに慣れ、日常臨床として実践されている。ERASプロトコルをこれからも進化させて術後の早期回復、早期社会復帰に役立てたい。



○演題Ⅱ「ビスフォスホネート製剤と顎骨壊死について」

済生会千里病院 歯科・口腔外科部長 道澤 雅裕

ビスフォスホネート(BP)は、骨粗鬆症や癌の骨転移などの治療薬として広く使用されている。近年、BPの投与を受けている患者に抜歯などの侵襲的歯科治療を行った後、顎骨壊死(BRONJ)が発症するとの報告が見られる。発生頻度は、海外の調査でBP剤内服患者で1000人に1~3人、注射をうけている患者で100人に7~9人に発生したと報告されている。通常の歯科治療(歯石除去、虫歯治療、義歯作製等)では問題はないが侵襲的歯科治療(抜歯、歯科インプラント埋入、根尖外科手術等)後、BRONJが発症することがあり注意を要する。危険因子として3年以上の長期投与患者や3年未満でも口腔衛生状態不良、抗癌剤投与、糖尿病、ステロ



イド投与、喫煙、飲酒などで発生頻度が上昇する。侵襲的歯科治療が必要な場合は約3か月BPを中止し、処置後2か月で治癒に問題なければ再開してもよい。BRONJ 発生患者では、注射用BP投与がん患者はがん治療を優先する。骨粗鬆症に対するBP投与患者では、休薬あるいは他の薬剤への変更を考慮する。有効な治療法は未だ確立されていないが抗生剤投与や局所洗浄などの保存的治療が優先される。いずれにせよ処方医および歯科医と連携して対処していく必要がある。

○演題Ⅲ「乳癌診療における最新知見」

済生会千里病院 乳腺内分泌外科部長 北條 茂幸

乳癌の診断においては、検診の段階にて視触診と併せてマンモグラフィが施行され、40歳未満の女性に対しては超音波検査がスクリーニングとして用いられつつある。画像検査にて乳癌が疑われた場合、穿刺吸引細胞診、針生検等にて診断を確定するが、近年では乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(マンモトーム®生検)を行うことにより、病変部の組織を確実に十分量採取することができるようになり、針生検による診断精度が向上した。また、乳腺MRI検査を用いることにより乳房内の病変の拡がり診断が可能となり、乳房温存手術における切除範囲の決定に重要な役割を果たしている。

術後補助療法(再発予防の治療)においては、世界的な治療指針の一つである St. Gallen コンセンサス会議の推奨に従って治療方針を決定する。2009年の会議では、risk category から risk threshold(しきい値)という概念が提示され、各リスク因子に対する治療を選択するオーダーメイド治療の傾向に進んでいる。



新任医師の紹介

千里救命救急センター 副センター長 西野 正人

卒業年：昭和60年

和歌山県立医科大学卒

資格：日本救急医学会専門医、
指導医、認定医

日本外科学会認定医

所属学会：上記ほか日本集団災害医学会、

日本診療情報管理学会

日本外傷学会



呼吸器内科部長 船越 俊幹

卒業年：平成4年 広島大学医学部卒

資格：日本内科学会専門医

日本呼吸器学会指導医

日本呼吸器内視鏡学会指導医

日本臨床細胞診学会指導医

日本臨床腫瘍学会暫定指導医

所属学会：上記ほか日本肺癌学会



医師氏名	診療科	役職	専門領域
岩重 渉	麻酔科	副部長	
山田 憲明	内科	医員	循環器
藤田 源太郎	歯科・口腔外科	医員	

第13回千里臨床カンファレンス

日時：平成22年6月12日(土)

14:30~16:00

場所：済生会千里病院 東館3階 研修室

【演題1】

『最近の肺がん治療について』

済生会千里病院 呼吸器内科部長 船越 俊幹

【演題2】

『乳癌に対する手術および科学内分泌療法について』

済生会千里病院 乳腺内分泌外科部長 北條 茂幸

吹田市糖尿病連携ネットワーク

日時：平成22年7月15日(木)

18:30~

場所：済生会千里病院 東館3階 講堂

詳細は決まり次第ご案内いたします。

※ 参加費 500円

(当日は軽食をご用意しております)